いい表情の子を育む

ビー　ビー　ビー。地震です。地震です。

10月16日、給食時間中の職員室に緊急地震速報が響きわたりました。状況を確認して校内放送を入れようと思っていたら、屋上に設置されているスピーカーから防災無線が聞こえてきました。続いて、天井からガガガーと椅子を引きずるような音が…。職員室のすぐ上は、3年生の教室です。子どもたちが机の下に隠れて避難行動をとったことが、その音から伝わってきました。しばらくの間、様子をみていましたが、大きな揺れが起こりそうにありません。そこで、各クラスの担任と子どもたちへ北海道で地震があったことを知らせ、給食を再開するようにと放送で伝えました。結果的に、この日の緊急地震速報は取消しとなりましたが、思いがけない時間帯の出来事に緊張が走りました。

「災害はいつどこで発生するのかがわからない」と言われています。ついつい「自分は大丈夫」という気持ちで過ごしてしまいがちです。ですが、今回のようなことがあると「備え」や「心構え」が大事だと実感させられます。

先日、本校で避難所運営会議が開かれました。各町内会・自治体の防災担当の方々と一緒に避難所開設までの流れや避難場所、備蓄物資等の確認をしました。備蓄物資は、153万人以上の市民一人ひとりの分が用意されているわけではありません。地震被害想定調査に基づいて算出された対象人数（約13万8千人）分のみが準備されているそうです。また、災害4日目までは十分な支援物資は期待できないそうです。そうなると、自分たちで食料や水などを備蓄しておく必要があります。小さなお子さんがいるご家庭では、粉ミルクや紙おむつなども必要になってきます。今一度、各家庭において確認をしたり、準備をしたりすることをお勧めします。

そして、この避難所運営会議で特に話題にあがったのが、携帯トイレの使い方と地震に強い水道管のことでした。

震災でも風水害でも、水洗トイレは使えなくなる可能性が大きいです。ライフラインが止まってしまい、水が出なくなることも想定できます。また、配水管が破損する可能性もあり、水洗トイレの水を流すことができなくなります。そのような時に、携帯トイレを使用することになります。携帯トイレは、便器にビニル袋を取り付け、ビニル袋の中に吸収シートや凝固剤を入れて、し尿を安定化させるものです。使用方法等の説明の後、使用済み携帯トイレの処分方法について質問があがりました。備蓄倉庫にある蓋つきのポリバケツへ使用済みの携帯トイレを入れて一時的に保管するそうです。ただ、においを無にすることはできないため、ポリバケツの置き場所については配慮が必要とのことです。

地震に強い水道管が設置されている場所を参加された方々と確認しました。地震に強い水道管は、わくわくプラザ近くの藤棚の前にあります。「自宅等で避難生活を送っていても、この水道は利用してよいのか」「一度にたくさんの人が給水に来た場合、この場所にも人を配置した方がいいのか」「どこの門を利用してここまで来た方がよいのか」など、多くの質問や意見が出ていました。

参加された方々から、「地域のために」という思いを強く感じると共に、地域や人とのつながりを大切にしていることが伝わってきました。11月16日からスタートする「朝の居場所」についても、同様です。地域や子どもたちのことを想い、活動しようとしてくださる気持ちが「朝の居場所」という形になったと考えています。感謝しかありません。

これからの教育活動の中で、皆さんの想いや人とのつながりを大切にしていくことについて、子どもたちへ伝えていきたいです。

校長　山川　佳美